

令和7年度第6回府中市デジタル田園都市国家構想総合戦略会議 会議録

日 時：令和7年12月24日（水） 15：00～17：00
場 所：府中市役所4階 第一委員会室

会議要録	
次第	<ol style="list-style-type: none">1. 開会 ○市長挨拶2. 報告事項 ・デジタル田園都市国家構想総合戦略の原案の提示、説明3. 協議事項 ・デジタル田園都市国家構想総合戦略の原案に対する意見・質問 ・自由討議4. 閉会 ○議長とりまとめ ○教育長挨拶
開会	
○市長挨拶	<p>委員の皆様におかれては、年の瀬を迎えお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。さてこの会議も今回で6回目となります。</p> <p>年度当初から開催して参りました本会議でございますが、皆様方には欠かさずご出席をいただき、府中市の未来を見据えた活発な議論を繰り広げていただいたことについて、深く感謝申し上げます。</p> <p>本日はこれまでの議論を集約し、府中市における地方創生の実現に向けて、次期総合戦略の素案をお示しする場となります。</p> <p>これまで、第1回第2回では全体的な方針、第3回から第5回にかけては、それぞれ産業、そして子育て、教育、そしてにぎわいづくり、安心・安全の4つの分野について、それぞれの視点から、熱心なご意見をいただけたと思っています。</p> <p>皆様の知恵と情熱が結集されたこの文書は、府中市の持続可能な発展のための有意義な道しるべになると考えております。</p> <p>本日の議論で出た意見を踏まえながら、年度内の完成に向けてさらに精査を進めて参りますが、この素案は官民が一体となって取り組むべき</p>

	<p>目標を示したものであります。</p> <p>改めて市としましても、地域の方、企業、また近隣の市町とも連携し、その実現に向けて、一致団結して取り組んで参りたいと思っております。</p> <p>本日も皆さんのお知恵と経験をお借りして府中市の未来に向けたよりよい戦略とプロジェクトを作り上げる場になることを願い、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
協議事項	
事務局	(説明は省略)
委員① (北川委員)	<p>今まで議論してきたことを非常にうまくまとめていただいていることは理解していますが、現在の府中市をこれからどうしていくのか、どういう町であって欲しいのかという議論がある一方で、府中市の財政状況に触れずしてこういう町であったらいいなということだけを語ることで総合戦略という方向性にしてよいのかどうかというところがどうしても引っかかります。そこはどう考えたらよいでしょうか。</p>
事務局	<p>おっしゃる通りです。財政問題というのは抜きにして語れないところがあるというのは間違いありません。一方で府中市も10年後を見据え、持続可能な財政づくりに向けた計画として出させていただいています。</p> <p>その中でも特に市民の安心・安全を守る、それから、市民サービスに極力影響がない形で維持していくというのを大前提としているわけですので、今まで十分でなかったですが、3年ごとに事業の見直しをしていく旨は計画の中にも盛り込んでいます。そういったところを踏まえ、財政については、持続可能な財政の今後の計画は見通しができたという見方もあります。</p> <p>それを総合戦略にどう落とし込むかという課題はもちろんありますが、現段階において、財政については何とかその見通しもたったという前提のもと総合戦略が立てられたものと位置づけております。</p> <p>戦略が財政にどう影響するか或いは財政の状況次第で戦略が変わっていくかという点については、例えば国の動向などによってももちろん変わる部分はありますが、最低限、財政の健全化が成り立った上でこの戦略が立てられていると考えていただきたく存じます。</p>
委員① (北川委員)	<p>今回の戦略目標ということで産業の活性化がありますが、府中の産業をもっと成長させていくための取組として、例えば企業誘致を積極的に行ったり、国と企業が一体になって成長産業や企業を創出しようとしています。</p>

	<p>府中の財政として支出する側をどうするかはもちろんですが、本来的には収入の部分はどう生み出していくかという点や経済の動向をとらえて今必要な施策を打ち出すことも産業の戦略の柱の中に必要ではないかと思えます。</p> <p>一般論として府中市が今後どうあるべきかよりも、現実の厳しい状況を踏まえながら歳入強化に向けた対策を総合戦略に明記すべきではないかと強く感じます。</p>
議長	<p>確かに財政に全く触れないのはどうなのかと思えます。</p> <p>冒頭の市長挨拶にもあったように、財政状況を踏まえながら具体的な政策を原案の中に落とし込んでいるはずなので、例えば府中市における地方創生の目指す方向性のページで少し財政に触れてみてはどうかと思いました。</p> <p>前半部分は国の方向性を受け、府中市ではこういう地域づくりを進めますという内容のため、例えばここに、人口減少、少子高齢化或いは厳しい財政状況にあっても若者や移住者を念頭に置きながら、仕組みづくりや豊かさを実感できる場所を目指すということが一言入っていると財政状況を踏まえた方向性を検討していることがにじみ出るのではないかと思いますのでご検討いただければいいかと思えます。</p> <p>これだけですべてを包含しているととらえるのは難しいですが少なくとも市の目指す方向性の中で、財政状況も勘案しつつ地方創生の目指す方向性を検討している事実は触れておく必要があると思えます。</p>
委員② (福田委員)	<p>教育の分野について、府中市には整った教育環境がある一方で、原案でも課題として挙げられているように認知度が充分でなく、府中市の教育が市内外に伝わっていない状況ですので、府中市の教育の特長などについてしっかりとPRしていただきたいと思えます。</p> <p>また、観光の分野でインバウンドの呼び込みなどが書かれていますが、前回の会議で委員から提言のあった府中市の魅力や歴史をストーリー化し、自然と外から人が訪れるようなものを作っていただき魅力ある府中市を作り上げていただきたい。</p> <p>もう一つ、スポーツ分野について、府中市にはスフィーダ備後府中という女子サッカーチームがありますので、積極的に連携をとることも戦略の中で示していただきたいです。</p>
議長	<p>スポーツについて固有名詞の明記はどのあたりまで問題ないという認識であるか、事務局の见解を教えてください。</p>
事務局	<p>固有名詞は当然隠す必要はない、出すべきだと思いますので団体とも調整して見せていくことを検討して参ります。</p>

議長	<p>交渉の熟度がなければ固有名詞を書くのは難しいと思いますが、民間スポーツ団体など書き方を工夫してみてもいいでしょうか。</p> <p>観光の部分の物語性についても、広域観光の推進のところで主要な観光スポットとの連携があるので、ここで物語性を持った連携を図るなど、具体的なイメージの創出に向けて一言形容詞を差し込むなどすべきかと思います。</p>
委員③ (小谷委員)	<p>教育分野の取組について、すでに取り組まれていることが多数書かれているように感じるので、せっかくの総合戦略ということもありますし中長期的に踏み込むべき内容や今後水平展開していきたいことなどを書き込んでもよいかと思います。</p> <p>観光について、具体的な取組として行政の取り組み事例があるんですが、その中にインバウンドに関する内容がないように思いましたので何か追記いただきたいと思います。インバウンド呼び込みはすぐに立ち上げるのが難しい取り組みではありますが、例えば広島県の観光連盟との連携や専門家の招致、その他外部者との連携など書き込んでみてよいいのではないのでしょうか。</p> <p>インバウンド需要の受入の実現のためには、いかに具体的なプロセスを描けるかが重要だと思いますので書ける範囲でご検討いただくようお願いいたします。</p>
議長	<p>先ほどの教育のデジタルに関する部分ですが、新学習指導要領に切り替わったことで「探究」というキーワードが出てきていますので、デジタルを活用して探究心をさらに高めるような方向性を示すのが良いのではと思います。デジタルは学校現場でも一つの道具としての役割を持っていますので、その道具を使って何を向上させるかという点を盛り込むとより良いかと思います。</p> <p>また、観光の部分についてですが、ご指摘の通り広域観光の推進において、近隣市との連携をイメージされているのだと思います。ただ、そこに県との連携といった視点も少し加えると良いのではないのでしょうか。そして、上下のエリアについては、以前外国人観光客が多く訪れていたという話も聞いておりますので、そういった具体的な事例も取り入れてみるとより充実した内容になるのではと感じました。</p>
委員④ (山路委員)	<p>産業について、産業連係室にお世話になっていましたが場所が変わったことで使いづらくなった感じがあります。現在は自動車関係のお仕事が少ない状況にある企業も多いため、公共の力を活かしてマッチングができるような仕組みを整えていただくと良いのではと考えております。</p>

	<p>また、展示会に出展できる力のある企業は限られているため、そういった機会にまだ至っていない企業への支援もぜひご検討いただければと思います。</p> <p>教育について、私どもでは、これまで5年間プログラミング教育を実施しており、最近ではロボットプログラミングにも取り組んでおります。ロボットプログラミングの成果が出て、たとえばロボコンや世界大会などに挑戦するような子どもが生まれれば、府中を盛り上げてくれる存在となる可能性もあるのではないのでしょうか。そうした取り組みを進めるためにも、学校や県、国との連携が図れる仕組みをぜひ考えていただければと思います。また、現在クロームブックが支給されていますが、そろそろ経年劣化が進み、プログラミングを行うには難しい環境が訪れることも想定されますので、この点についての見直しもご検討いただければと思います。</p> <p>町の魅力向上についてですが、県の動きに関わっておられる方がいらっしゃる中で、私もJC（青年会議所）やYG（商工会議所青年部）といったつながりでさまざまな人々との接点をいただくことがあります。先日も尾道への移住者の方からご連絡をいただき、府中家具を使いたいということでマッチングのお願いをされました。このようなお話は、近隣の尾道、福山、三原などでも十分に起こり得ることですし、県内の交流の場を活用することで、さらに多くの仕事や人のつながりが生まれる可能性があります。外部で活発に活動している人々の情報や動きを、地域の連携にうまく活かしていけると良いのではないのでしょうか。JCやYGなど若者のコミュニティは、外部とのネットワークを持っているからこそ、その情報を地域に還元できるような仕組みがあると理想的だと思います。</p> <p>また、「ハッピーサンデーマーケット」について、来年復活させることが決まっておりますが、過去に道の駅で開催した際にはなかなかうまくマッチせず、次の開催場所について思案しているところです。ちょうど先週、青年会議所の若いメンバーが「かわまちプロジェクト」に取り組んでおり、戸手高校前の広場で広域的な連携活動をしようという提案が出ています。JCや神辺あしな商工会、青年部が協力して新しい文化交流・地域連携を目指している動きですので、こうした活動もぜひ地域の活性化に活用していただければと思います。</p>
<p>委員⑤ (本谷委員)</p>	<p>KPIに設定されている駅周辺の公共施設の利用者数について、具体的にどの施設を想定しているかもう一度教えていただけますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現状の案では数値を図る都合もありますので道の駅びんご府中、イコ</p>

	<p>ーレふちゅう、スピングルウェルネスセンター、ポムポムの4か所で検討しております。ただし来年度は人流データの導入も考えておりますのでこちらも活用して測っていきたいと考えています。</p>
<p>委員⑤ (本谷委員)</p>	<p>かわまちプロジェクトの件について、私もお話をさせていただく中で伺ったのですが、このプロジェクトは福山から始まったものとのこと。ぜひポムポムの川辺付近まで範囲を広げていただくと良いのではないかと思います。現在、JC や青年部の皆さんが既に動いてくださっているところもあるかと思いますが、府中市の皆さまにもぜひご協力いただきながら、さらに地域の賑わいの創出に繋げていければと願っています。</p> <p>また、最後の重点プロジェクトとして挙げられている「つたえるプロジェクト」についてですが、個人的にはその表現が少しわかりにくいように感じられます。例えば広報戦略の策定や、以前から話題に上っているような府中市の子育て支援や教育に関する取り組みについても、府中市は非常に力を入れていて、周辺の市町からも高い評価をいただいている一方、実際に住んでいる市民の中でも、特に当事者となる子育て世帯の方々にはしっかり伝わっているものの、それ以外の世代の方々にはなかなかその情報が届いていないという課題があるように感じています。</p> <p>そうした部分については、この「つたえるプロジェクト」の中でどの程度具体的に繋がりを見せているのか、またこの戦略に表現しきれない部分について、別の方法や形でしっかりと記述されているものがあるのかどうか、少し気になっております。これらの課題も十分にご認識されているかと思しますので、さらにわかりやすく情報発信を考える方向で取り組んでいただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>広報の取組はもちろん行っていきたいと考えており、特に SNS を活用した発信の強化に取り組んでいきたいと考えていますので、タイミングに応じた事業の打ち出しになるかと思います。</p>
<p>委員⑤ (本谷委員)</p>	<p>令和2年に府中市でランドデザインを作成されていますが、その内容が今回の総合戦略にどのように活かされているのかが、正直なところあまり見えず、少し分かりにくいと感じております。以前、別の機会にお話を伺った際には、ランドビジョンの中にもさまざまな内容が盛り込まれていたと記憶しているのですが、今回の総合戦略の中でそのビジョンがどの程度反映されているのかが分からず、せっかくのランドビジョンが十分に活用されていないように思えて、もったいないと感じています。</p> <p>もちろん、総合戦略の中では新たに必要な要素が盛り込まれるのは当</p>

	<p>然のことかと思いますが、過去に作成されたグランドビジョンとの関連性や、それがどこまで活かされているのかについてももう少し明確に見える形で示されていると良いのではないかと思います。これまでの取り組みや計画を無駄にすることなく、ぜひ総合戦略に活かしていただければと願っています。</p>
議長	<p>グランドデザインに関してですが、資料3の39ページに記載されている重点プロジェクトの中では、「あるきたくなるプロジェクト」が最も当時の方向性とフィットするように思います。</p> <p>ただし、例えば行政の取り組み事例として挙げられている「駅北エリアの整備計画の検討」といった表現は、どの自治体でも使われるような一般的な言葉に留まってしまっています。そこで、例えば「駅北エリアの歴史的な町並みを生かした整備計画の検討」や「駅南エリアにおける公共施設や官民連携施設を活用した回遊性の推進」など、具体的かつ地域の特徴を活かすような言葉を加えることで、プロジェクトの繋がりやコンセプトがより明確になるのではないかと思います。</p> <p>当時グランドデザインを作成した際には、北部を歴史的なエリアに、またその他のエリアを公共施設や別のゾーニングに分けるなどのコンセプトを考えた経緯があります。そのような背景をプロジェクトの中に少しでも盛り込んでいただくことで、方向性がよりはっきりとしたものになるのではと感じました。ぜひ、そうした点を踏まえてご検討いただければと思います。</p>
議長	<p>それでは本日ご欠席の委員のご意見について事務局からご紹介いただけますか。</p>
事務局	<p>「つながるプロジェクト」についてですが、少人数でも構いませんので、それぞれの分野に携わる官民の関係者が定期的に座談会を行える場を行政主導で設けていただきたい、というご意見をいただいております。また、「あるくプロジェクト」に関しては、歩くことでしか見えてこない地域の魅力が必ずあるという観点から、市民の歩く意欲を高めるとともに、市外からも人を呼び込むための工夫が重要だということでした。その一例として、ぐるっとバスの巡回コースを市民がよく歩くコースと重ね合わせるのも良いのではないかと、というアイデアも寄せられています。</p> <p>また、人口目標に関する自然動態について、現実的な路線を進むだけでなく、市民に希望を持ってもらう視点が重要ではないかという点が挙げられました。具体的には、合計特殊出生率だけでなく、「希望出生率」という考え方を参考にしてはどうか、というもので、この希望出生</p>

	<p>率とは、結婚や出産を願う若い世代の希望がなかった場合の出生率のことです。</p> <p>加えて「あるくプロジェクト」に関しては、これまでの議論を知らない方々にとっては少し唐突に感じる可能性があるというご指摘もいただいております。そのため、このプロジェクトを重点として位置づけるのであれば、第二期戦略の振り返りなどのタイミングで先に言及しておく必要があるのではないか、とのお話でした。</p> <p>「ウォークブルなまちづくり」や委員からの提言を踏まえ、このプロジェクトを進めること自体には賛同しつつも、「重点」として位置づけるべきかどうかには慎重な議論が必要ではないかのご意見です。そして、「つたえる」「つながる」に加えて、「つくる」という観点も重点として取り上げられるのではないかとのご提案がありました。たとえば、人を作る、仕事を作る、魅力を作る、そして人の流れを作るというような視点を追加することで、より幅広い取り組みが可能になるのではないかと、というお話をいただいております。</p>
議長	<p>市民に希望を持ってもらう観点も重要だ、というのはおっしゃる通りだと思います。</p>
委員① (北川委員)	<p>かわまちプロジェクトについてですが、実はこのプロジェクトは府中からスタートしたもので、「芦田川中流域全体都市構想」というテーマで進められ、当時はコスモス街道を作ることで繋がりを生むという趣旨で取り組まれていました。しかし現在は福山市を中心に動いている部分が見受けられます。残念ながら府中には声がかかっていない状況で、これは福山市と府中市という行政区の枠が影響しているのではないかと感じています。そのため、行政だけで物事が動くのではなく、生活圈全体を捉えた連携が重要であると思います。以前は代議士の方にも応援いただいておりますが、現在は福山市主導となり、府中が取り組みから外れてしまっている現状には少なからず危機感を覚えます。本来であれば行政の枠を超えて、生活圈全体で取り組む方向性が望ましいと考えております。</p> <p>また、産業活性化の観点から言えば、DX（デジタルトランスフォーメーション）やAIといった新しい技術が府中の町づくりや産業振興の鍵になるのではないかと思います。府中は古い町ではありますが、こうした技術を積極的に活用していくことで新しい可能性を切り開けるのではないのでしょうか。その際、民間企業がこうした技術を活用するだけでなく、行政自体がDX化・AI化に率先して取り組むことで、その活用モデルを示し、市民や企業にとっても新しい技術への抵抗感を和らげ、積</p>

	<p>極的に取り組むきっかけを作ることができると思います。</p> <p>また、行政がDX化を進めることで、府中の中で刺激的な事例が生まれ、企業同士でのアイデアの共有や連携が活発化する可能性もあると感じています。こうした行政が主導となって技術活用モデルを示すことが、「町の戦略」として非常に面白い視点になるのではないかと思います。ただ単に民間を支援する形ではなく、行政そのものがDXを進めてその成果を市民や企業に示すことで、「目玉となる戦略」が作り出されるのではないのでしょうか。このような取り組みが府中の未来にとって大きな意味を持つものになると感じておりますので、ぜひご検討いただければと思います。</p>
<p>委員⑥ (吉原委員)</p>	<p>私からは若者についてお聞きしたいと思います。「府中市にける」や「目指す方向」、原案39ページの「重点プロジェクト」などに、若者に関するキーワードや、新しい価値を生み出す力となれる仕組みについて触れられている部分があるのですが、その具体的な内容がどこに記されているのかがはっきりせず、少し残念に思っています。</p> <p>府中市内には、さまざまな団体や市民の方々が面白いプロジェクトを展開しているのは事実ですし、若者にもそうしたアイデアや取り組みがたくさんあると思います。ただ、若者たちはアイデア力はあっても財力がない、またどこに相談すれば良いのか分からないという状況にあるのではないのでしょうか。それでも勇気を出して電話やメールをして相談しようとする若者がいたとしても、「何の話ですか?」と言われてたり、「聞いておきます」と曖昧にされてしまうと、そこで気力をそがれてしまう可能性があります。</p> <p>だからこそ、若者のアイデアに対して「面白いね」「その話、もっと詳しく聞きたいね」と真摯に向き合ってくれる窓口が1つあるだけでも、若者はやる気になるものだと思います。商工会議所でも、「なぜ自分のアイデアを使ってくれないんだ」という若者の声が聞こえた際には、それを流さずにしっかり受け止め、次につながるような対応をすることが、まさに市の目指す方向性や重点プロジェクトに合致するのではないのでしょうか。</p> <p>そういった若者たちが安心してアイデアを相談できる窓口や仕組みの設置を検討いただければと思います。彼らのやる気を引き出し、活躍の場を広げる取り組みがあれば、より良い方向に繋がるのではないかと強く感じています。</p>
<p>議長</p>	<p>冒頭、委員から「非常によくまとまっている」との評価をいただき、私もそのご意見には同感です。ただ、少し辛口なことを申し上げると、</p>

府中市に関する記述が「福山市」に置き換えられても違和感なく読めてしまうほど、個性や独自性が薄いのではないかと感じました。そのため、府中ならではの特色をもっと盛り込むべきではないかと思っています。

その一例として、資料3の3ページ目に記載されている人口のグラフに注目しました。これをもとに、私なりに再構成したものをお手元に配布させていただきました。この棒グラフでは、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）の内訳を示しており、それぞれの推移を見ることで府中市が直面している課題がより明確になると感じています。

具体的には、府中市の子どもの数は2020年の3,922人から2050年には1,442人と半分以下になり、生産年齢人口も1980年の約3万6,000人から2020年には約1万9,000人、2050年にはさらに約8,695人まで減少すると推計されています。一方で高齢者数も2020年の約1万4,371人から減少傾向にあるという、非常に危機的な状況に直面しているという認識です。

このような人口減少を背景に、府中市のものづくり産業をどう持続可能な形で維持していくか、また子育て環境をどう守り、発展させていくかといった課題が浮き彫りになります。さらに、定住人口が減少していく中でも通勤・通学人口や交流人口、関係人口を増やしていく視点が重要ではないかと思います。たとえば、府中を訪れたことがなくてもアンテナショップなどを通じて府中の魅力を知り、ファンとなり、やがて実際に訪れてみたいと思ってもらえるような仕組みを構築することが必要です。

国の政策では定住人口だけに着目しがちですが、府中市は昔から福山市との連携を通じて人の行き来を生み出してきた地域です。買い物やスポーツなどを目的に訪れる交流人口、ふるさと納税をきっかけに府中に興味を持つ関係人口をさらに増やすことで、賑わいを維持し、市民に希望を持たせるような取り組みが求められるのではないのでしょうか。これらの視点は、「あるくプロジェクト」や「つながるプロジェクト」といった施策とも深く関連してくると思います。

また、このような状況に対応するための具体的な施策として、DX（デジタルトランスフォーメーション）や外国人の受け入れなどの取り組みが挙げられるかと思っています。それらを実現するためのデータや根拠となるエビデンスが非常に重要になるため、今回のグラフを活用しながら議論を深めていければと思います。このような取り組みが府中市の持続可

	<p>能性を高める鍵になると考えておりますので、ぜひご検討いただければと思います。</p>
<p>委員⑦ (宮城委員)</p>	<p>府中市の人口減少についてですが、現在の新生児数は0歳が106人、1歳が134人、2歳が141人、3歳が143人と年を追うごとに減少している状況です。この数字を見ると、例えば小学校に進学した際の1学年が3クラスほどに収まる規模であり、10年後にはさらに減って2クラスほどになる可能性もあるのではないかと、少し不安に思っています。このまま減少が続けば、地域の活力に影響を及ぼすことが懸念されるため、新たな人口の定着を促進する取り組みを早急に進める必要があると感じています。</p> <p>また、府中東高校の進路状況を見ても、府中市より福山市への就職者が多い傾向があり、せっかく府中東高校で学んだ若者が府中市内で就職する機会が少ない現状には課題があるのではないかと思います。福山市から通学している生徒がいることも一因かもしれませんが、それでも府中で学び育った高校生がそのまま府中市で働き、生活を続けられるような取り組みが必要ではないかと考えています。府中市で「育ち、働き、循環する」仕組みを作りつつ、さらに新たな人材を呼び込む努力も必要ではないでしょうか。</p> <p>次に観光についてですが、尾道や福山の鞆の浦といった観光地は強力なライバルであり、特に外国人観光客を含めた呼び込みには工夫が必要だと感じています。例えば福山駅に降り立った観光客が尾道や鞆の浦へ向かう場合、それぞれ電車やバスといった定期的なアクセス手段が整備されています。一方で府中へのアクセスが不便である場合には、魅力的な観光資源があっても、人が流れてしまう可能性があるのではないかと心配しています。そのため、府中市へのアクセスのしやすさを向上させる取り組みも重要になってくると思います。さらに、車で訪れる観光客への対応として町中の整備を進めることも必要ではないでしょうか。</p> <p>また、府中駅に到着した観光客がどのように市内を巡ればよいか分かりやすい仕組みがあると良いと感じています。自由度が高いと行動に迷うことも考えられるため、例えばスタンプラリーや観光モデルコースを設定し、「ぐるっとバス」を活用すればスムーズに市内全体を巡れる、といった提案があると親しみやすくなるのではないのでしょうか。ゲームのRPGのように「このコースを進めば物語が楽しめる」といった仕掛けを用意することで、観光を楽しみながら府中市の魅力を十分に堪能できる仕組みづくりを検討していただければと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>重点プロジェクトの中で「つながるプロジェクト」が39ページに記さ</p>

	<p>れており、行政間の連携や防災を通じた市民同士の繋がりについて触れられていますが、その中に「公共交通」に関する記述が見当たらない点が、少し残念に感じられました。「つながるプロジェクト」において、公共交通は重要なインフラの一つであると思いますので、ぜひその位置づけを盛り込んでいただきたいと思います。</p> <p>公共交通という視点を加えることで、福山や尾道といった近隣都市との連携を図る広域的な繋がりや、町の中での二次交通的な繋がりをもっと強化することができるのではないのでしょうか。こうした取り組みは「つながるプロジェクト」の一環として大きな意味を持つと考えていますので、その重要性をぜひ認識していただき、「つながるプロジェクト」の中に位置づけていただければと思います。</p>
委員⑧ (大橋委員)	<p>議長がお示しくくださった人口推移のデータについてですが、これは府中市だけの課題ではなく、福山市や広島県、日本全体でも似た状況が見られる問題であると感じています。そうした中で、隣接する町からの移住や定住を促進する、あるいはインバウンドとして技能実習生や留学生を受け入れる、関係人口を増やしていくといった取り組みは確かに一つの手段ではあると思います。ただ、こうした人口減少が避けられないものであるならば、むしろ「住みやすさ」や「生活の質」を向上させ、「府中市に住んでよかった」と感じてもらえるような幸福感を高める視点が必要ではないかと考えています。</p> <p>私自身府中市に住んでいるわけではありませんが、いただいた資料や耳にする情報を基に考えると、たとえば府中市が「子育てしやすい町」であることをもっとアピールし、積極的に情報発信していく必要があるのではないのでしょうか。また、府中市には100年以上続いている企業が60社もあり、これは非常に価値のある強みであり、アピールポイントになると思います。こうした歴史のある企業がDX（デジタルトランスフォーメーション）を活用し、効率化や最先端を目指すことを示していくことで、新たな魅力として発信できるのではないのでしょうか。</p> <p>さらに、報告書に記されている内容についてですが、個人的には少し具体性が欠けているように感じられました。市民に届けるためには、より分かりやすく、視覚的に伝える工夫や、具体的なプロジェクトの説明を盛り込む必要があるのではないかと考えています。特に、今回記載されているプロジェクトについては、1度読んだだけでは内容がなかなか理解しづらい部分もありますので、誰もが見てわかるような工夫をぜひご検討いただければと思います。</p> <p>人口減少という避けられない課題に対して、定住促進だけでなく市民</p>

	<p>の幸福度を高める視点を持ちながら、府中市の強みを活かした情報発信をより一層進めていくことが、今後の戦略として非常に重要ではないかと感じております。</p>
<p>委員⑤ (本谷委員)</p>	<p>人口減少が進む中で、府中市の強みとして「昼間人口が夜間人口よりも多い」という点がよく言及されています。この特徴は、近隣市町から府中市へ通勤や通学で訪れる方が多いことを示していると思います。ただ、最近はこの話を繰り返し聞いているものの、実際のところ具体的な実態がどのような状況なのか、データとして明確に把握できているわけではありません。そのため、この「昼間人口が多い」という点をしっかりと示すことが、府中市の強みをより鮮明にし、市民に希望を抱いてもらえる戦略に繋がるのではないかと感じました。</p> <p>先ほど皆さんのお話を伺っても、人口減少という厳しい状況の中でも、働きに来られる昼間人口の多さを具体的に記述し、それを府中市の魅力として戦略に盛り込むことで、市民にとっても地域への期待が生まれるのではないかと思います。この点についての実際のデータや分析があれば、それをうまく活用して市民や関係者に対して希望の持てる情報を発信することが重要ではないかと感じています。</p> <p>ぜひ、この昼間人口に関する具体的な状況や強みを、戦略の中でわかりやすく示していただければと思います。それが府中市の持続可能な未来に繋がる一助になるのではないかと考えていますがいかがでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>現在、府中市の昼間人口は夜間人口よりも 1,500~2,000 人ほど多い状況です。具体的には、過去に府中市の人口が約 4 万人だった頃は昼間人口が 4 万 3,000 人ほどでしたが、現在の夜間人口が約 3 万 6,000 人に対して昼間人口は約 3 万 8,000 人程度と、確かに昼間人口の方が多い状態は続いています。</p> <p>しかしながら、全体的には昼間人口も減少傾向にあり、企業側でも人手不足を感じる状況があるのではないかと思います。昼間人口が夜間人口よりも多いという府中市の強みは依然としてありますが、人口減少の影響は昼間人口にも及んでいることは間違いなく、この現状を踏まえた取り組みが必要だと感じています。</p>
<p>委員⑤ (本谷委員)</p>	<p>昼間人口が多いということは、府中市にそれだけ働く場所があるということであり、これが地域の強みであることは間違いのないと思います。確かに人口減少の影響で働く場所自体も減少しているかもしれませんが、それでも雇用の場が多く存在している点は府中市の魅力であると感じています。</p>

	<p>一方で、人材確保に苦勞されている事業主さんが多いという声も聞いております。そのような現状を踏まえ、この戦略の中に働く場所の強みや、人材確保の支援に繋がるような内容を盛り込んでいただければ、市民や事業者の希望にも繋がるのではないかと思います。ぜひその視点もご検討いただければ幸いです。</p>
<p>閉会</p>	
<p>○議長 とりまとめ</p>	<p>様々のご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>お話を伺う中で、全体的な構成や柱については概ね皆さんにご納得いただいているように感じました。具体的には、産業、子育て、まちの魅力向上、暮らしやすさという4つの戦略、さらに横断的な視点としてのデジタル情報発信、人材活躍支援、広域連携。そして重点プロジェクトとして掲げられている「つたえる」「つながる」「あるきたくなる」といった柱について、特に大きな異議は出なかったように思います。この構成自体は現時点で良い方向性なのではないかと感じています。</p> <p>ただし、内容については少し具体性を高めたり、個性を持たせたりする必要があるように思います。たとえば、連携や活躍といった言葉自体は良いのですが、それが具体的にどのような形で実現されるのか、実際の姿がイメージできるような記述を加える必要があるのではないのでしょうか。また、観光について「物語性」などの提案があったように、府中市らしい特徴や魅力をより具体的に表現する工夫が求められると思います。</p> <p>今後スケジュールが進む中でタイトな部分もあるかと思いますが、ぜひその中で、計画の内容をさらにブラッシュアップし、府中市らしさが伝わる形に仕上げただけだと思います。少し精査を重ねて、読み手が「これが府中市だ」と感じられるような計画にさせていただけると嬉しく思いますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>○教育長挨拶</p>	<p>本日も熱心なご議論をいただき、誠にありがとうございました。議長をはじめ、様々な参考となるご意見をいただきました。</p> <p>まず、現実を踏まえた視点が重要であるというお考えや、府中市ならではの独自性を活かした具体的な記述がまだ不足しているのではないかと、といったご指摘がありました。</p> <p>また、全体的にPRが足りていない部分が課題であるというお話もあり、これについてもさらに検討を進めていきたいと考えております。</p> <p>人口減少についてはどうしても避けられない課題ではありますが、府中市の昼間人口が多いという点は強みとして活かすべきだと感じています。たとえば、府中市教育センターでは職員20数名のうち市内に住む者</p>

が3名しかいないという現状があるように、「関係人口」という視点が非常に重要な意味を持つのではないかと思います。

いただいたご意見を踏まえ、できるだけ具体的かつ発展的に書き込むべき部分については、今後修正を加えた上で再度お示しさせていただき、皆さまのご意見をいただきながら計画を進めてまいりたいと思います。